

年報 23 号

## 特集 遡下降のススメ

- 8 アプローチが沢、下山が沢
- 14 自分で作る、つなげものの世界
- 17 充実の遡下降ルート
- 19 会心の遡下降、思い出のルート、  
オススメ周遊案、夢の沢めぐり
- 23 遡下降目線の山域案内
- 27 沢屋相談室

## 会山行

- 32 4月会山行 守門岳  
黒姫山スキー／オカバミ沢右岸尾根山スキー／守門岳上祝沢山スキー／タモ沢右岸尾根～守門岳／藤平山～守門岳
- 39 6月会山行 山毛櫛沢山集中  
伊南川宮沢入川～塩ノ岐沢／檜枝岐川深瀬沢／檜枝岐川幽ノ沢～コゴミ沢／安越又川山毛櫛沢～芝倉沢～コゴミ沢／安越又川小沢～黒谷川小手沢～芝倉沢／安越又川道行沢手前左岸の沢～小手沢～芝倉沢
- 49 9月会山行 苗場山集中  
釜川左俣倉俣沢／釜川右俣千倉沢横沢右俣／祓川黒岩沢～釜川左俣倉俣沢／清津川棒沢／清津川熊ノ沢／清津川サゴイ沢／釜川右俣千倉沢横沢
- 64 10月会山行 白沢山集中  
野尻川白沢～布沢道行沢～白沢山／只見川白沢川／ケンチュウ沢～とちくぼ沢～赤沢／只見川吸沢右俣／大川入沢右俣～白沢川

2014年12月1日から2015年11月30日までの山行記録を収録。「無雪期の山」は、沢登り、ハイキングとクライミング。「雪の山」は、雪山縦走、雪稜、アイスクライミングと山スキーの記録です。

## 無雪期の山

- 朝日連峰・飯豊連峰
  - 72 八久和川中俣沢
  - 76 三面川岩井又沢中俣沢
  - 80 榊形川岩魚沢～東大鳥川西ノ俣沢水上沢
  - 83 胎内川東俣沢本源沢
- 川内山塊
  - 88 早出川中杉川
  - 90 早出川広倉沢左俣～夕沢
  - 95 早出川中流部（丸子～今泊）
- 奥利根
  - 99 柄沢川～下ゴトウジ沢～ブサの裏沢
  - 102 利根川本谷
- 会越国境
  - 106 刈谷田川深谷
- 越後・巻機山・谷川連峰
  - 108 松川川ぬりっこ沢～毛の又沢川
  - 110 三国川黒又沢五竜沢
  - 112 水無川センノ沢
  - 114 栃ノ木沢丹後沢左俣
  - 116 三国川芋川ジロト沢右俣布晒ノ滝
  - 118 大源太山登川大畠ノ沢 α ルンゼ
- 尾瀬・奥鬼怒
  - 120 笠科川西栗沢～無名沢
  - 121 鬼怒川日光沢
- 信越国境・上信越国境
  - 122 釜川エビリュウ沢～オゼノ沢
  - 124 魚野川渋沢
- 北アルプス・中央アルプス・木曾山脈
  - 126 錫杖岳前衛フェース
  - 128 太田切川本谷
  - 130 片桐松川本谷
  - 132 木曾川荻原沢
- 南アルプス・八ヶ岳連峰
  - 134 早川黒桂河内二ノ右俣～保利沢
  - 137 大井川赤石沢
  - 140 安部川コンヤ沢本谷
  - 143 立場川本谷
- 東北
  - 146 八甲田・荒川逆川～バツカイ沢
  - 149 八幡平・大沢森周辺沢巡り
- 西上州・奥秩父
  - 151 毛無岩烏帽子岩直上ルート
  - 153 大血川西谷石楠花沢右俣～左俣
- 比良連峰
  - 155 ふるさとの山（蛇ヶ峰・白倉岳・百里ヶ岳）

# 特集 遡下降のススメ

遡行だけが沢登りではない。登って、下って、  
つなげて広がる沢登りの世界

「それまで沢登りといえば「沢を遡行して登山道を下る」のが当たり前で、それ以外に方法は無いと思っていた。私にとって、この山行は目からウロコが100枚くらい落ちた山行で、この山行を機に地図を「線」から「面」で見ることができるようになった。」(IID)



誰もが一度は経験する沢下降の印象であろう。そんな沢遡行に沢下降を組み合わせる試みは特に新しいことでは無く、我々の先人達がすでにたくさんの記録を残されている。ただ黎明期はかの冠松次郎でさえ『溪(たに)』の中で「溪自体の姿を最もよく観られるのは遡行のときよりむしろ下降のときだと思う」と述べるに留まっている。西洋アルピニズムに対抗する形で北アルプスを中心に沢遡行を世に出された時代である。

その後、トマの風ができる前の時代、そうそうたる沢登りの山岳会が山域を面で捉えるいわゆる「地域研究」という取り組みを通して、アルピニズムとは全く違う独自の文化を立ち上げられた。自分たちも「いつかは」と強くあこがれたものだった。

地域の生活者の視点も含めて、面で捉える立場では登山道は殆ど無く、沢に入るにしても、登った後にしても遡行と沢下降、その間を藪こぎでつなぐしか無い。そんな「仕方なく」始まった沢下降ではあったが、ひとたび遡下降という「自由」を手に入れたことで積極的にルートを創造する楽しみが増えたのである。

先達の活発な活動に対して自分たちもその後を追いかけてきたのが実態で、特集とはいえってもそれほど目新しいものでは無い。ただ沢登りも下降ルートを含めたいくつかの有名ルートができ、インターネットを探せば参考になる写真や遡行図が簡単に手に入る時代。改めて「遡下降」の意義と注意などをまとめ、それと共に自分たちで考えた具体的な遡下降のルートや考え方を提示することで、新しく参加してくれたメンバーも、いつかは地図や山行の積み重ねをもとに創造的な計画を自分で作り出して欲しい、という老婆心にも似た気持ちで特集を組んだ。

